

1. 具体策 3 項目の全体要約

今回の回答を見ると、各地域薬剤師会の具体策は、概ね次の 6 分類に整理できます。

① 未入会薬局・未入会薬剤師への「声かけ・訪問」

最も多かった取組は、未入会薬局や勤務薬剤師、B 会員候補者への直接的な声かけです。

電話、メール、DM、訪問、会員薬局を通じた勧誘など、まずは接点を持つことを重視する地域が多数でした。

特に、会員薬局に勤務する薬剤師への B 会員加入の呼びかけ、新規開局薬局への案内、実務実習生や新卒薬剤師への声かけが多く挙げられています。朝霞では実務実習生への新卒薬剤師加入案内、保健所への新規薬局開設時の加入案内配布依頼が挙げられています。

② 会員メリットの「見える化」

次に多かったのは、会員であることのメリット、退会による機会損失を資料化し、分かりやすく伝える取組です。

具体的には、入会メリット資料、退会デメリット資料、パンフレット、HP 掲載、活動紹介資料などの作成が挙げられました。

上尾伊奈では「入会のメリット・退会のデメリットの見える化」、熊谷では「入会のメリットを具体的に挙げた資料の作成」、三郷では「入会メリットをまとめたパンフの作成・配布」が示されています。

③ 若手薬剤師・勤務薬剤師・薬学生への働きかけ

B 会員増強を意識した取組として、若手薬剤師、勤務薬剤師、薬学生、実務実習生へのアプローチが目立ちました。

若手交流会、実習生への活動見学、薬学生への新卒キャンペーン案内、勤務薬剤師への個別勧誘などが挙げられています。

戸田では実習生や新卒薬剤師への声かけ、蓮田では実務実習等に関わる薬学生に県薬会員のメリットと新卒者対象キャンペーンを周知する取組が示されています。

④ 地域活動・行政連携を通じた薬剤師会価値の創出

地域イベント、健康フェア、防災活動、学校薬剤師、夜間休日輪番、地域ケア会議、薬物乱用防止活動などを通じて、薬剤師会の存在価値を示す取組も多く見られました。

富士見・三芳では、地域のお祭りやイベントへの参加、商工会など地域団体との連携、さらに災害対策への積極的参画が挙げられています。

越谷では、行政の地域医療課との定例会議や保健所との連携強化を通じて、薬剤師の職能を発揮できる機会を増やす方針が示されています。

⑤ 広報・情報発信の強化

HP 作成、SNS 活用、ショート動画、活動報告掲載、パンフレット配布など、薬剤師会活動を外部に見せる取組も多く挙がりました。

入間、草加、本庄・児玉、羽生、秩父などでは、ホームページ作成や活動報告の掲載、動画による活動紹介が示されています。特に秩父では、薬剤師会活動のショート動画を作成し HP へ掲載する案が挙げられています。

⑥ 制度面の工夫・入会しやすい仕組みづくり

入会金の見直し、入会キャンペーン、紹介制度、トライアル参加、会員を増やした薬局への助成、研修参加費の会員・非会員差別化など、制度面の工夫も複数ありました。

飯能では薬剤師会へのトライアル参加、北本では準会員制度や月会費制、寄居では会員を増やした薬局への助成金、春日部では地域活動参加証明や費用対効果が分かる資料作成が挙げられています。

2. 想定される課題の要約

各地域から挙げられた課題は、次の 5 点に集約できます。

① 会費・入会金の負担感

最も大きな課題は、入会金・年会費の負担感です。

特に B 会員については、個人負担となる場合に「費用に見合うメリットが見えにくい」という意見が複数ありました。

さいたま市では、B 会員が日薬まで加入すると年 4 万円、県薬まででも 3 万 3 千円に加え入会金が必要となり、物価高騰の中で支払以上の魅力が実感できないことが課題として示されています。

② チェーン薬局・本部判断の壁

A 会員加入については、管理薬剤師本人だけでなく、エリアマネージャーや経営者、本部の判断が影響するため、地域薬剤師会が各薬局に声をかけても限界があるとの意見がありました。

桶川では、県薬加入には薬局本部の意向があるため、各薬局に入会をお願いしても限界があると記載されています。

所沢でも、同一チェーン薬局の加入ルールを見直す場合、全店加入につながる可能性がある一方、全店退会となるリスクも指摘されています。

③ 県薬・日薬に加入する価値が見えにくい

地域薬剤師会には入会しても、県薬・日薬には入会しない可能性がある、という課題が複数地域から示されています。

特に、地域での研修・連携・情報共有は地域薬剤師会で完結している部分もあり、県薬としての独自の価値が見えにくいという意見がありました。

鴻巣では、県薬加入の必要性や価値がはっきりしないため勧めにくい、また「県薬が関わったことで何が変わったのか」という具体的成果を示すことが加入促進につながるのではないかと意見が記載されています。

④ 活動時間・人員・資金の不足

多くの地域で、通常業務との兼ね合い、役員の負担、活動資金不足が課題として挙げられました。草加では、活動時間・資金ともに不足し、会が運営している事業自体の存続に不安があること、若い薬剤師への引継ぎにも採算性や教育時間の課題があることが示されています。

⑤ 高齢化・世代交代・若手参加の難しさ

会員の高齢化、世代交代、若手薬剤師の参加不足も大きな課題です。富士見・三芳では、会員の高齢化や世代交代、チェーン薬局への対応、多忙による活動時間確保の難しさが挙げられています。

3. 埼玉県薬剤師会への支援要望の要約

県薬への支援要望は、かなり明確な傾向が出ています。

① 入会金・年会費の減免、キャンペーン、補助

最も多い要望は、入会金・年会費の負担軽減です。具体的には、B 会員会費の値下げ、入会金減免、月会費制、準会員制度、トライアル制度、新卒キャンペーンに伴う地域薬剤師会への補助などです。

北本では、B 会員会費値下げ、入会金・年会費の値下げ、1～2 年限定の準会員制度、月会費制が提案されています。

朝霞では、新卒薬剤師初年度無料キャンペーンを実施する場合、地域薬剤師会にも協力費として補助してほしいとの要望が示されています。

② 新規開局薬局・新卒薬剤師情報の共有

複数地域から、新規開局薬局や新卒薬剤師に関する情報提供を求める声がありました。上尾伊奈では「新規開局薬局や新卒薬剤師の情報」、本庄・児玉では「新規薬局開設の際の地域薬剤師会への情報提供」、加須でも「新規開局情報があれば地域薬剤師会にも教えてほしい」との要望が出されています。

③ 県薬加入の価値・成果の明確化

県薬として、地域薬剤師会が説明しやすいように、県薬加入の独自メリットや具体的成果を明確に示してほしいという要望が複数ありました。

鴻巣では、県薬が行政調整や職能維持で担う役割について、「県薬が関わったことで何が変わったのか」を見える形で示すことが必要との意見がありました。越谷でも、県薬・日薬に入る価値を明確かつ強化してほしいとの要望が示されています。

④ 広報資料・成功事例・入会促進ツールの提供

会員増強に活用できる広報資料、成功事例、入会説明資料、未加入薬局への働きかけに使える情報提供を求める声もありました。

富士見・三芳では、広報資料や成功事例の共有、新規開局薬局や未加入薬局への働きかけに使える情報提供、研修会や情報交換の機会充実が要望されています。

⑤ 研修会・講習会の充実と費用軽減

県薬主催研修会の会費引き下げ、無料化、毎月の単位取得研修会開催、地域薬剤師会の研修開催支援なども要望として挙がりました。

深谷では、県薬主催研修会・講習会の会費を下げる、できれば無料にすること、また研修センター単位取得可能な県薬研修会を毎月実施してほしいとの要望が示されています。

⑥ 制度・行政・国への働きかけ

幸手からは、地域支援体制加算に関して、地域薬剤師会との連携条件をより厳しくするよう国に働きかけてほしいとの要望がありました。

また、深谷では県下統一の疑義照会簡素化プロトコル作成・実施の要望も出ています。

4. 総括

34 地域薬剤師会の回答からは、会員増強に向けた方向性として、**「声かけ」「メリットの見える化」「若手・B 会員対策」「地域活動への参加」「広報強化」「制度面の工夫」**が中心であることが分かります。

一方で、課題としては、**会費・入会金の負担感、県薬・日薬加入メリットの見えにくさ、チェーン薬局・本部判断の壁、役員の負担、若手参加の難しさ**が大きく浮かび上がりました。

県薬への要望としては、単なる精神的支援ではなく、**費用負担軽減、入会手続き簡素化、新規開局・新卒情報の共有、県薬独自メリットの明確化、広報資材提供、研修支援、制度面での働きかけ**といった、実務的・制度的支援が求められています。

今回の回答は、各地域薬剤師会が「会員増強は必要」と認識している一方で、現場だけでは限界があることも示しています。今後は、地域薬剤師会の個別努力に加えて、県薬として共通資料・共通キャンペーン・支援窓口・成功事例共有・費用面の検討を進めることが、会員増強を実効性あるものにする鍵になると考えられます。